

四国八十八カ所霊場 第七十二番

我拝師山 がはいしざん まんだらじ

# 曼荼羅寺



大師修行始めの五岳のふもと、  
遣唐使として学んだ  
青龍寺を模した古刹。

伽藍の背に緑濃い稜線を描く、

香色山・筆の山・我拜師山・中山・火上山。

曼荼羅寺は、空海七歳の時、この山の山頂から

衆生救済の誓願をたてて身を投じた。

大師修行五岳の中央、我拜師山のふもとに

千二百年のいらかを広げています。

縁起によれば、弘法大師の一族である佐伯家の氏寺として

推古四年(五九六)に建てられたのが始まりで、

創設当時は世坂寺といっていました。

大同二年(八〇七)、唐から帰国した大師が

ここに唐の青龍寺に模して堂塔を建て、本尊に大日如来を祀り、

金剛界・胎藏界の両界曼荼羅を安置し、

寺号を曼荼羅寺と改めました。

真言宗善通寺派、大師にゆかりの深い古刹の一つです。



弘法大師



大師お手植え「不老の松」

菅笠を大地にすっぽり伏せたよう。

樹高4m、東西17m、南北18m。

ほぼ正円形に枝葉を張り、およそ132畳に

わたって地上を覆う客殿前の松は、「不老の松」と呼ばれ、

弘法大師のお手植えと伝えられています。松の緑は樹齢1200年を数えて

なおも鮮やか。別名「笠松」とも呼ばれ、県指定の名木の一つです。

県指定  
「自然記念物」



本尊 大日如来

星座中央には「法輪」、  
四隅に守り役の「羯磨」が配されています。  
そして、外陣は緑色を基調に法界の荘厳花である  
「暈網の花」が一面に描かれています。  
そこはまさに弘法大師の「心の空間」であり、  
密厳浄土の世界です。  
しばし時を忘れて、宇宙との交信を楽しんでください。

かつては金堂や講堂、宝塔など、  
空海が唐の国で学んだ青龍寺を模して  
建てられていたという曼荼羅寺。  
山門をくぐると、右手に観音堂と客殿、庫裏、  
手前左手に鐘楼、その奥に大師堂。  
そして本堂は、桜の木々を透かして正面に  
高く伸びやかな覺を張り出しています。  
この本堂は、仏教の宇宙観を具現化したマンダラ空間。  
「曼荼羅」とは、真言密教の根本をなすもので、  
金剛界・胎藏界の大日如来を中心に輪を描く  
仏の世界を体系的に図示したものです。  
それにならって、中心に座するのは  
金色に輝く優しいお顔の大日如来。  
そして、三百七十枚で構成されている本堂の格天井は、  
宇宙の仕組みを解き明かすように内陣と外陣に分かれ、  
内陣は天空を意味する「二十八宿」の星座を描き、

しばし、宇宙との交信。  
大師の心にふれる  
マンダラ空間。



## 水葦の庭(客殿)

客殿の縁側ごしに見える庭は、著名な造園家が江戸初期の曲水庭と折り紙を付ける古庭園です。苔むした石組み、枯山水の河にかかる石橋の厚みにも歴史の趣。初夏にはつしが鮮やかなアクセントを添えます。



## 西行ゆかりの「昼寝石」と「傘かけ桜」

本堂前には、西行ゆかりの「昼寝石」と「笠掛桜」があります。平安の歌人として有名な西行法師(二八〇-二九〇)は、白峯寺坂出市に詣で、都落ちした崇徳上皇の霊をなぐさめた後、寺の近く



の水葦の丘に、二一年間、草庵を結んでいたと言われます。その間、曼荼羅寺にもしばしば訪れ、本堂前のこの大きな平石の上で

よく昼寝をされたようです。またある時、西行法師が都へ帰る人と曼荼羅寺を詣でたときのこと。同行の人が形見にと、笠を本堂前の桜の木に掛けたのを見、西行法師は、「笠はあり、その身はいかになりぬらんあわれはかなきあめが下かな」と詠みました。この桜の木は今も本堂前にあり、その歌碑が昼寝石の横に立っています。



山門(仁王門)

## 藤原期の端麗なお姿 「聖観音立像」



観音堂では、等身大で松二木造りの木造聖観音立像(県指定文化財)が藤原期の端麗ながら、ふくよかで親しみやすいお姿を拝観させていただきます。

護摩堂と鎮守堂(八幡堂)



鐘堂と大師堂



四国霊場八十八カ所 第七十二番  
我拜師山 **曼荼羅寺**  
〒765-0061 香川県善通寺市吉原町  
電話(0877)63-0072

祝 落慶

自然を感じる街の  
**HIKARI 株式会社 光建設**

本社 / 〒763-0071 丸亀市田村町1238 TEL (0877) 22-4141  
支店 / 〒760-0078 高松市今里町251-3 TEL (087) 866-1133